

マリンレスキュー MONOギャラリー

～現場で役立つようなMONO～

今回は、数ある資器材の中でも、『マリンレスキュージャーナル』編集部が注目する「特に役立つようなグッズ」として、メガホンと救命胴衣をご紹介します。

蓄光型・防水メガホン

海難事故遭遇時に自分の存在を周囲に伝えるためのものとして、また水難救済活動時に遭難者に呼び掛ける器材として常備しておきたいメガホン。

小型で救助活動の邪魔にならないもの、防水タイプや蓄光・サイレン機能を備えた機種など多機能型のものも、手ごろな価格で購入できるようになっています。

写真のTS-613L型は、ホーンマウスに蓄光樹脂を採用し、暗闇で長時間（15時間以上）発光するもの。防噴流型で、いかなる方向から水の直接噴流を受けても有害な影響を受けない構造となっているため、雨天時等の活動に最適です。



TS-613L型

写真提供：(株)ノボル電機製作所

救命胴衣

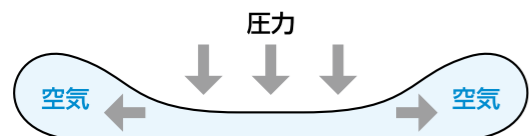
救命胴衣は構造によって、主に「気体封入式」「膨張式」「固型式」の3種類と、固型式と膨張式の要素を兼ね備えた「ハイブリッド式」とに分類されます。

構造ごとに浮力の得られ方や形状の違いなどがあるため、使用シーンや備える目的に合わせて選ぶとよいでしょう。

A. 気体封入式

気体を封入した気密性の袋を内蔵したもので、外観上は固型式とよく似ていますが、非常に柔らかく軽く作られています。気密性の袋を保護するため、表面に薄い固型の浮力材も使用されています。

写真のウクンダA8型は、気体密封式浮力体を前面部左右に各3本、後面部に6本の計12本を配して浮力を確保。空気を自由に移動させることで柔軟性を持たせ、作業性に優れた救命胴衣となっています。



外圧を受けると内部の空気が移動し、かさばらない構造。



ウクンダA8型

写真提供：日本船具(株)

B. 膨張式

浮力体として炭酸ガス等を使用するため、多くは非常に薄くコンパクト。膨張方法としては、自動式（水に浸かると自動的に膨張）と手動式（膨張作用用のひもを引くことで膨張）の2種類があり、作動すると内蔵のポンベから気密性の袋にガスが充填されて膨らみます。膨らみが足りない場合には、息で補充することもできます。

コンパクトなため人気がありますが、気密性の袋が破れる恐れのあるシーンでは、避けた方がよいでしょう。

●首掛け式

膨張する気密性の袋をマフラーのように首に掛けて、腹部のベルトで身体に固定して使用します。通常時は気室が畳まれた状態のため、固型式のものよりもかさばりません。小児用のものもあります。



BJ-1700型

●ベルト式

膨張する気密性の袋が畳まれて入っているケースを、ベルトのように腰に巻き付けて装着します。通常時は非常にコンパクト。落水した場合は、自動または手動で気室を膨張させます。



BJ-170型

写真提供：東洋物産(株)

C. 固型式

浮力体に発泡プラスチックなどの固型物を使用しているシンプルな構造のもの。最も普及しているタイプです。

●チョッキ式

衣類のチョッキ（ベスト）と同じような形状です。袖部の穴に両腕を通し、身体の前についた、ひもやファスナー、バックルなどを留めます。さらに、腹部のベルトや両脇の寸法調整部で調整して、身体にしっかりフィットさせます。



NS-JS型

●首掛け式

マフラーのように首に掛けてから、腹部のベルトを使って身体に固定させます。



NG-17型

写真提供：日本船具(株)